

ると好都合のことがあります。

追加、質問 (札幌医大) 工藤 隆一

先生の術式において我々が通常行っている腹膜外リンパ節廓清、腹膜外に基靭帯切断、腔式広汎の手術操作の中で、腹膜外操作について我々が行っている操作を採用していただきましてありがとうございます。手術症例数がまだ多くはないようですが、現在においても手術時間、出血量等より手術侵襲も少ないようで今後症例を重ねられまして、すばらしい術式である事を示していただける事を期待します。

質問としては腹膜外の基靭帯切断時癌の進行等によって、例えば IIIb 期に近い症例の場合基靭帯の起始部そのものより、血管 1 本 1 本切断する方法等、切断部位を変えていますか。

回答 (自治医大) 玉田 太朗

基靭帯の処理はケースバイケースですが、リンパ腺が腫れている場合は、血管を 1 本ずつ結紮、切断することもあります。

質問 (川崎市立川崎病院) 林 茂

1) 腹膜外で操作されるのは、何処まで行われますか。例えば基靭帯の処理はどうか。

2) 膀胱を剝離した後の剝離面が広く、死腔炎は多くないか？ また、それに対して、ドレーンなどに工夫されているか？

回答 (自治医大) 玉田 太朗

1) 子宮動脈切断、尿管はくり、基靭帯切断は、経腹膜外で行います。

2) 膀胱後面には特別な処置はしませんが、現在までの所、特別な障害は認めません。

378. 卵巣悪性腫瘍の治療効果判定に対する second look operation

(久留米大)

西村 治夫, 松隈 孝則, 綱脇 現
薬師寺道明, 加藤 俊

卵巣悪性腫瘍に対する Second look operation (以下 SLO と略)の目的は、残存腫瘍の摘出ならびに治療効果の判定に大別される。後者では検査手術的性格が強いいため、症例の選択や取り扱いはより慎重でなければならない。

我々は1974年以後、教室で行った SLO 101例のうち治療効果判定を目的とした47例について検討した。

その結果、14例(30%)に転移再発が認められ、そのうち3例では肉眼的異常はなく細胞診のみ陽性であった。また、後腹膜リンパ節のみの転移も2例に認め

られ、再発の早期発見という点で SLO は重要な意義を有することが再確認された。逆に、SLO 所見で全く異常を認めなかつたにも拘らず3例の死亡例があり、以後の検診の重要性が示唆された。

臨床進行期別に検討すると、悪性群では期別に拘らず転移再発陽性例が認められた。ただし、中間群の I 期に限っては陽性例は1例もなく SLO の省略が考慮された。

さらに、SLO 転移、再発陽性例の治療後の効果判定を目的とした Third look operation の必要性について検討した。これによると、中間群ではその適応はないと思われるが、悪性群に関しては実施すべきと考えられた。

質問 (鹿児島市立病院) 波多江正紀

SLO 時に Cancer free の患者からも recurrence があるが、このような症例に何か adjuvant chemotherapy を使われますか。

回答 (久留米大) 西村 治夫

1) Second look 所見陰性例では、以後の治療を中止している。

但し、4例の再発をみたことは重要な問題であり、これらの症例の予防のため術前化学療法終了の時期などを含め、現在検討中である。

質問 (新潟大) 半藤 保

1. 自・他覚症状や所見のない例に対して SLO を行つて、ある例は再発があり、ある例は再発がなかつたとのことであるが、両者を分ける臨床的な特徴にはどのような点があつたでしょうか。

2. 再発例の中に、早期再発癌でない症例が含まれていたが、その例の管理法(診察間隔、検査法など)はどのように行われていましたか。

回答 (久留米大) 西村 治夫

1) 開腹して転移、再発を認めた30%の症例は、進行期、組織型、初回手術所見などに、特定の傾向は認められなかつた。

2) 時期の設定は非常にむづかしいが、以前の症例の予後をみると、腺癌では1年~2年の間に急に下降する傾向が認められた。この様な理由より1年という時期を設定した。

但し、Embryonal Ca. の生存率曲線では、1年以内に急激な下降を示すので、1年では、やや遅いという感である。

379. 卵巣癌進行例の second look 及び third look operation 所見からの考察

(兵庫医大)

平 省三, 大門美智子, 西浦 治彦
竹村 正, 磯島 晋三

目的：悪性卵巣腫瘍の剔出不能な進行例に対し，強力な化学療法と second look 或いは third look operation (SLO, TLO) を組み込んだ治療法により，今迄予期されなかつた良好な結果を得たので，その開腹所見の特徴と病理組織所見を示し，本法の有効性を報告する。

方法：手術時剔出不能に終つた進行性卵巣癌に cis-platinum (CDDP) を中心とした強力な化学療法を行い，腫瘍の縮小が得られたものに，治療効果判定のみならず，残存腫瘍を出来る限り剔出する為，SLO, TLO を行つた3例を対象とした。

成績：3例共化学療法で腫瘍縮小後は，SLOで殆ど腫瘍を剔出するか，又は，CO₂ Laserで消滅させることができた。1例は再発徴候があつた為，TLOを行つて肉眼的には完全剔除しえた。開腹所見は，CDDP療法により腫瘍は成人頭大より手掌大程度迄縮小していたが，卵巣及び播種腫瘍が被膜で覇われ子宮体に癒着し，一部CDDPの効果と思われる水泡変性や，乳頭様変化がみられた。剔出血性であつたが，鈍的に剝離可能となつており，広範な大網切除を含めて，完全剔除を行い得た。剔出腫瘍の組織所見は，腫瘍細胞自体の異形成減弱，一部変性壊死を認め，線維性結合織に封じ込められていた。SLO後LDH値上昇がみられた症例は，CDDP投与後TLOを施行し，大網に変性した腫瘍がみられたが，残存子宮，残存大網の完全剔除を行い得た。3症例における初回手術からSLOまでの間隔は，13～16カ月であつた。SLO後，最長25カ月を経過している。

考案：未だ確立された治療法のない悪性卵巣腫瘍に

おいて，CDDPを主とした強力な化学療法で腫瘍を縮小せしめ，効果判定の為のみではなく，積極的な意味あいをもつた治療的SLO時にはTLOを行うことにより，長期寛解または治癒への可能性が大きくなることを見出した。

質問 (久留米大) 薬師寺道明

積極的に second look ope. を施行されていることに対し，我々も全く同意見であります。1つだけお聞きします。

化学療法の Regimen は (ope 前の) どのように決めていらつしゃいますか？

質問 (鹿児島市立病院) 波多江正紀

third look operation の際，すでにDDPを使用し，なおかつLDHが上昇しているのので，ope後のchemotherapyはDDP combinationをしてもcancer controlが難しいことを予想されるが，それでもthird look opeの価値がありますか。

回答 (兵庫医大) 平 省三

久留米大薬師寺先生に対して

① i) FAMT療法を主体とした時期から，CDDPを中心としたchemotherapyへと移行したため。

ii) FAMT療法が無効なため，cis-platinumに切りかえたところ効果を認めたため，second look operationを施行した。

鹿児島市立病院波多江先生に対して

② i) LDH値が上昇を認めたため，tumor残存があると考え，chemotherapy後，third look operationを施行した。

ii) second及びthird look operation前後にcis-platinumを投与したのは，CDDPが，op.にまで持ちこめる程の効果は認めていることと，現在のところCDDPに代りうるchemotherapyがないため。

第65群 手術・麻酔 III (380～383)

380. 悪性腫瘍末期の治療法—腎後性無尿に対する経皮的腎盂ドレナージ—

(社会保険山梨病院) 松田 稔

子宮癌(頸部と体部)や骨盤内悪性腫瘍末期の患者で癌が骨盤腔内に蔓延してくると，尿管が閉塞され，腎後性無尿となり，水腎症，尿毒症，死亡へとつながる。これに対し従来，尿管皮膚移植術，腎瘻術，尿管

S字状結腸吻合術等が行われてきたが，後腹膜腔内への尿管の落ち込み，尿管皮膚開口部の強度の皮膚炎と癒着性狭窄，上行性感染，hyperchloremic acidosis等の副作用の為，延命効果は期待できず，また術後の管理も非常に煩雑であり，リスクの悪い患者には上記の手術は不可能な場合もありうるわけである。このような症例に対し簡単な手技で，確実な，しかも延命効果